

ちかひ

2014

正月号

VOL.139

浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年

◆ 目次 ◆

- 新春を迎えて
 - 慈光 〈第25回〉
 - お釈迦さまのご生涯 12
 - 賢問子行状記 9
 - インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 33
 - 総本山誓願寺だより
 - 何でも、お寺探偵団、Vol. 37
- 海平山 紫雲院 瑞用寺



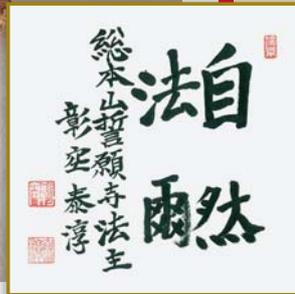
◆ 総本山誓願寺蔵「釈迦涅槃図」 ◆



新春を迎えて

浄土宗西山深草派管長
総本山誓願寺 法主

井ノ口 泰淳



謹賀新年

皆様方にはそれぞれ御機嫌宜しく新年をお迎えのことと衷心お喜び申し上げます。私こと年一年と老令を迎え、身心の衰えを自覚して居りますが、唯今のところ日々の法務を滞りなく勤めて居ります。

昨秋十月十二日より十六日にかけての五日間、総本山誓願寺を会所として十八年振りに曼荼羅相承の大会が修行され、私も傳燈師としての大役を無障礙に勤めることが出来ました。これもひとえに佛祖の御加護と大衆各位の御盡力のおかげと深く感謝致して居ります。厚く御礼申し上げます。

本年二月には私の法主としての三期十五年の任期が

満了致します。二月には総本山より退山する予定で居ります。この永い期間、大過なく管長・法主としての大役を勤め上げることが出来ました事ひとえに佛祖の御加護と皆様方の御庇護のおかげと衷心より感謝致して居ります。退山の砌には改めて御挨拶申上げる機会もあろうかと存じますが、新年の御祝いを申上げる機会に一言申し添えます。誠に永年の御厚誼有難く厚く御禮申し上げます。

平成二十六年 元旦

総本山誓願寺 第百貳世

彰空泰淳 謹識

※井ノ口法主御染筆の色紙を抽選で1名の方に差し上げます。詳しくは7ページをご覧ください。



【慈光】。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿弥陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？タイトルの「慈光」は、鈴木皓道先生のお寺本宿町「慈光院」より拝しました。

【佛さまの特別な光】

江戸時代に月僊げっせんと言う有名な画家がおりました。この方は、元々芝しばの増上寺ぞうじょうじのお坊さんであり、絵の天才

でした。その道に没頭し、噂が噂を呼び、月僊のころへ絵の依頼が多くなり、ますます有名になりました。

当然起きたのが、月僊本人の慢心と金銭欲でした。一幅の絵を依頼すると、思おもよらぬ金額を要求され、巷ちまたの人々は、「乞食月僊こじきげっせん」と悪名で呼ぶほどになりました。

そうしたある日、京都祇園ぎげんの芸妓げいぎが一幅の絵を依頼しました。月僊は、ほどな

くして絵を仕上げ、芸妓の私宅へ伺うと、折しも四、五人の来客があり、月僊も加わり茶菓を頂いていました。

すると突然襖が開き、主あるじの芸妓が仁王立ちをし、「皆さん、そこに居るのは月僊さんですが、この人は心が汚い。絵は上手かも知れませんが、心は乞食だ。こんな人の描いた絵を床の間に飾ることは出来ない。これで充分だ。」

と言って着物をまくると、下着のように月僊の絵を腰に巻いていたのです。

月僊は、「ハッ」と気付かされました。以後自分の財産たからを悉く人々に施し、当

時の巨匠である田山応挙まるのやまわづきよの弟子となり大成しました。

賤いやしい月僊の心を清くしてくださったのが、佛さまの現起光げんきこう（特別な光）です。

真面目に念佛合掌の生活をする人は、誰に教えられないのではなく、佛さまの尊い現起光によって、思い直す心、考え直す心にさせて頂けるのです。

この心を忘れないで欲しいものです。

布教講習所所長
慈光院住職

鈴木 皓道



総本山誓願寺での「涅槃会」

お釈迦さまのご生涯 12

文・釈尊法話会

涅槃（後編）



夫人も天界から息子を案じ、葉を持って駆け付けました。

「お師匠さまがお亡くなりになられた後は、我々はどうやって生きて行けばよろしいのでしょうか。何を信じて人生を歩めばよろしいのでしょうか」

お釈迦さまがお答えになられました。

「お前達は自らを依り所とし、他人を依り所としてはならない。仏教の正しい教えを依り所とし、その他のものを依り所としてはならない」

こう言われた後、お釈迦さまは八十年のご生涯を終えられ、涅槃にお入りになりました。今から二千五百年前の旧暦二月十五日のことです。

現在ではお釈迦さまが涅槃にお入りになられたことを追慕し、全国各地のお寺で二月十五日に「涅槃会」が勤められています。

拘尸那竭羅に到着されたお釈迦さまは、沙羅林の双樹下で、頭を北に顔を西に向け、右わきを下にし、両足を重ね、横になられました。その時、沙羅林は時ならぬ花々を咲かせていました。大勢の弟子たち、菩薩、天人に囲まれて、涅槃の時を静かに待つておられました。

しかし弟子たちは、「お師匠さまがお亡くなりになられる、涅槃にお入りになられる」と大声を上げて泣いていました。お釈迦さまの生母であり、天人となった摩耶

賢問子行状記

9

宝蔵寺住職 小島英裕

第五話

「芥子国、日本に渡る」

(後編)

賢問子は、中国・唐に心を寄せていたとして、天智天皇の逆鱗げきりんに触れ、牢獄に入れられていました。通訳の者が芥子国に言いました。

「あなたの父は牢獄に入っています。会うことは叶わないでしょう。早く唐に帰りなさい」

芥子国は驚き、

「父に何の罪があったのでしょうか。今、父が牢獄に入れられていると聞いて帰るわけには参りません。牢獄に入っていたとしても、一度は会わせてください。私が父に代わり牢獄に入ります」

と泣き叫びました。側で聞いていた役人も涙ぐみました。

しかし、他の役人たちは口々に、

「罪人の子など会わせることは出来ない。賢問子は唐の皇帝に頼み込み、日本を傾けようとする悪人。お前の言うことなど聞けるか。早く帰れ」と怒りに満ちた眼差しで言いました。

芥子国は思いました。

「父、賢問子こそ唐に靈仏を残し、衆生救済じゅうじょうの慈悲深き人、どんな悪事を働いたのですか。父は誰かに陥おとしられたのです。私は必ず、父の無実を明白にします」

と言って、直ちに春日大社に詣でました。

春日明神さまに、

「春日明神さまのお導きにより、父に

会えると喜んでいたのですが、父は牢獄に入れられていました。誰かが陥れたとは思えません。父に過ちがあるのなら仕方ありませんが、もし無実であるならば神力じんりきで、父を牢獄から出してください。もし父に過ちがあったならば、私を替わりに牢獄に入れ、父の命を助けてください。それすらも叶わないのであれば今ここで、私の命をお取りください」

と、夜通し涙ながらに拝みました。

それから毎日、役所へ行き、

「どうか父に一度会わせてください。天皇さま、私の願いを叶えてください」

と、泣き泣き願い出ることに三月みつきに及びました。

そしてついに願いが天皇に通じました。

「唐より来た幼い子ども。牢獄の外より、父に対面を許すべし」

と命令が下り、役人は芥子国を連れて牢獄に行きました。(つづく)



リクシャー・ワーラーに
してやられた!

到着予定時刻を1時間15分遅れて、ヴァラナシ駅に着いたのは午前10時半だった。同席した婦人と別れの挨拶をして駅の外に出ると、底をついてしまった現金を両替するために、オートリクシャー（三輪タクシー）を拾って、予め調べておいた銀行のあるホテル・スーリヤを目指した。

駅から北北西に2キロメートルほど行くとそのホテルがあり、リクシャーを待たせておいて中に入った。ロビーの一角に銀行はあり、トラヴェエラズ・チェック200ドルを9640ルピー（約24100円）に換金してもらった。待たせておいたリクシャーに戻り、宿泊予定のガンジス川の近くにあるホテルに行くように頼んだ。そこまでは南西に6キロメートル程の距離だった。

だが、降ろされた場所をグーグルで見回しても、目的のホテルの名前は見当たらなかった。リクシャーの運転手に聞いたですと、「英語は話せません」と言い出す。それまでお互い片言の英語でやり取りをしていたのに、急にしばらくくられた態度が変わったのだ。頭にきたのと同時に呆れてしまった僕は、言われるがままに70ルピー（175円）を払ってしまった。後で利子に「全額払わなくてもよかったのに：」と言われた。確かにちゃんと目的地に連れて行かなかったのだから、その通りである。だが、頭にきていた僕はそんな余裕はなく、その時に言っただけで悔しかったのだ。

降ろされた場所の目の前にあるホテルの従業員が待ち構えていた。そのホテルとリクシャー・ワーラー（リクシャーの運転手）が裏で結託しているのだろうと思った

が、取り敢えず部屋を見て値段を聞いてから決めようと思った。そこで、二部屋を見て良さそうな方の部屋に決めた。だがこの選択が、後で悔やまれる結果を招く事になってしまふのである。

それはさておき、ホテルの従業員に、対岸にある城跡の博物館までボートで往復するツアーがある、と誘われたので、丁度この旅の目的のひとつが叶えられると思い予約をした。そして小一時間休憩した後、集合場所であるガンジス川の岸に歩いて向かった。



浮き橋の向こうに見える、ラムナガル城
城塞博物館

総本山誓願寺だより

誓願寺新京極 文化セミナリーのご案内

絵でよむ伝記 絵伝を愉しむ

「絵伝」とは、高僧や聖人の生涯でおきた様々なドラマを、長い絵巻や大きな掛幅に描いた仏教絵画のことです。中世の日本では、仏教の開祖のお釈迦さまをはじめとして、各宗派の祖師や高僧の生涯を描いた絵伝が競うように作られました。人々は、絵伝を觀賞することで、宗派の成り立ちや、祖師の御苦勞を学んだのです。この講座では、今に伝わる絵伝の数々から、当時の人々が作品の中に込めた思いを、わかりやすく読み解いてゆきます。

◇内容(全4回)

- 第1回 平成26年1月18日(土)
○イントロタクシオン 「絵伝 つてななに？」
↳ 祖師信仰と絵画の関係
- 第2回 平成26年2月1日(土)
○仏教の祖・釈尊の絵伝
- 第3回 平成26年2月15日(土)
○和国の教主・聖徳太子の絵伝
- 第4回 平成26年3月1日(土)
○法然上人と親鸞聖人の絵伝

講座開講時間 18時～19時30分(90分)
講座受付時間 17時30分～
受講費 500円

会場 総本山誓願寺 誓願寺会館1階

*ご予約 TEL 0752210958 (誓願寺) 当日受付可



講師 村松 加奈子

龍谷大学龍谷ミュージアム 助教(学芸員)。
専門は日本中世の仏教絵画史。主な論文に「中世聖徳太子絵伝にみる三国伝来観―鶴林寺本聖徳太子絵伝をめぐって―」「美術史」169号、2010年、「四天王寺所蔵二幅本聖徳太子絵伝」「國華」1408号、國華社、2013年などがある。

おもな行事予定

- 一月
 - 二日(水祝) 修正会
 - 十五日(水) 六阿弥陀功德日
 - 二十四(金) 法然上人追慕念仏行脚
- 二月
 - 三日(月) 節分会
 - 八日(土) 六阿弥陀功德日
 - 十五日(土) 涅槃会
 - 二十二(土)～二十三日(日) 加行前行
- 三月
 - 十四日(金) 善導忌
 - 六阿弥陀功德日
 - 十八日(火)～二十四日(月) 春彼岸
 - 二十五日(火)～四月四日(金) 法脈相承

クイズコーナー

【問題】

今回の「慈光」で月僊は誰の弟子となり大成しましたか。漢字四文字でお答え下さい。

○○○○

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、ハガキにてご本人にご連絡致します。名前の掲載の困る方は、その時にご返事下さい。今回は管長猊下御染筆の色紙を一名、瑞用寺さまより落慶記念の腕輪を五名、本山謹製線香を五名の方に、合計十一名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-1031 四

愛知県西尾市下矢田町郷二

養寿寺内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】一月三十一日

(消印有効)

ちかい 第139号

発行日 平成二十六年一月一日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二二二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp

何でもお寺探偵団

瑞用寺

Vol.37



今回は、西尾市巨海町にある「海平山紫雲院瑞用寺」を訪ねました。

profile
久保田悦司 師

昭和29年3月28日生れ、現在59歳。
平成11年に晋山し、住職となる。
瑞用寺第31世。

Q1 お寺の由来を教えてください。

永禄二年(1559)に賢翁善海上人により海浜道俗の念仏道場として創建されました。善海上人は念仏を大切にされ

る方で、こんなエピソードがあります。晩年、京都のお寺に参りたいと思い、比叡山あたりで念仏を称えていると、そこに老僧が現れて、「そなたの念仏の声を聞いておると、心の引きしまる思いがする、どうか私の刻んだ十二面観音像をお祀りして、人々に念仏の良さを広めてください」と渡されました。その後、観音さまをお祀りして、多くの人々に念仏の素晴らしさを説いたそうです。現在、観音さまは天明二年(1782)に村人の懇願により、隣村の神社に移され、人々の心の拠り所となっておりま

Q2 お寺の宝物は何ですか？

過去に本堂、庫裏焼失の為、特別な宝物はありませんが、新築の本堂と檀信徒の皆様が大切な宝物です。

Q3 お坊さんとしての心掛けは何ですか？

他に、境内に樹齢約300年(直径1.5m高さ13m)の楠の木があり夏は涼しい木陰をつくっています。

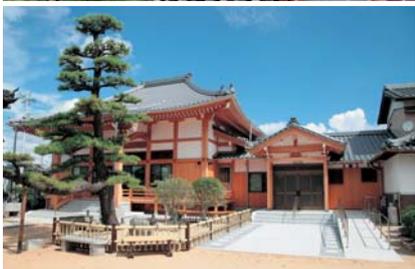
Q4 「ちわい」読者に何か頂けますか？

お参りに伺うと、「お経はようわからん」、「仏教のことはさっぱりわからん」と言われますので、この「わからん」を今の言葉でできるだけわかりやすくお話しするよう心掛けています。

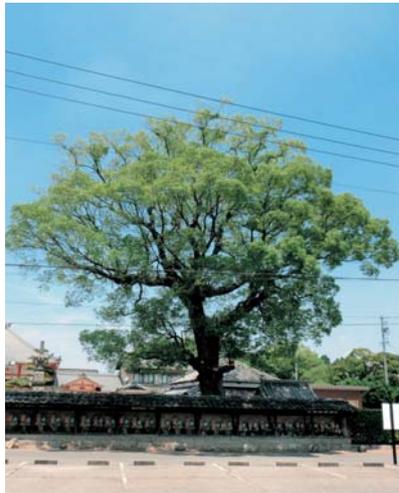
落慶記念の腕輪を5名の方に差し上げます。



鐘楼門



新築の本堂



樹齢約三百年の楠木

【交通】
名鉄三河線 碧南駅下車
ふれんどバス、吉良高校行
「巨海」下車 南へ100m

【主な行事】

春彼岸会	春分の日と前日
盆施餓鬼	8月4日
秋彼岸会	秋分の日
除夜の鐘	大晦日
念仏の会	毎月18日
写経の会	毎月2日

【お問い合わせ】
瑞用寺 〒444-0322
愛知県西尾市巨海町宮岸35
TEL&FAX 0563 (59) 4028